

〔ひきこもり本人を支える教育機関との連携〕

花房絵理香・常光美咲

ひきこもりについて学びを深めていく中で、「不登校」がキーワードのひとつとして挙げられる。ゼミ研究を深めるうちに、「不登校の子どもが卒業した後の支援はどのようになっているのだろう」と疑問を持った。義務教育の間は、スクールソーシャルワーカーが関わりを持ち、対応を行っていることが分かったが、義務教育が終わると、スクールソーシャルワーカーの支援は離れてしまい、孤立化や社会への参加の機会から遠ざかってしまうという課題があることを先行研究などから知ることができた。

今回視察に行かせていただいた総社市では、ひきこもり支援センターとスクールソーシャルワーカーが連携を図り、ひきこもり本人への支援を行っている。ひきこもり本人が学校を卒業したから支援は終わりというわけではなく、ひきこもり本人がこれからも自分のペースで進学先や社会に出ていけるよう支援を提供していくことの大切さを学ぶことができた。また、1つの機関だけで支援を継続することは難しいため、早期介入、早期支援へつながるためにも、学校や行政機関などのフォーマルな機関だけでなく、家族などのインフォーマルな社会資源も含めたつながりを持ちながら支援体制をつくっていくことが大切だと改めて感じる事ができた。

〔最後に〕

この度は、視察に同行させていただきありがとうございました。また、総社市社会福祉協議会の職員の方、家族会会長の方から、ひきこもり支援センターの成り立ちから、現在に至るまでの取り組みなど詳細にお話していただき、また質問にもお答えいただき、とても貴重な体験になりました。



私たちは今後津山を拠点に、ひきこもりの家族支援について学びを深めたいと考えています。家族が抱えている不安や支援機関との間に生じる障壁、家族の支えになる取り組みなどを明らかにしたいと思っています。今回の視察で学んだことをもとに、さらに研究を進めていきます。

菅原研究室の皆様

ご協力ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします

。津山きびの会

